

# ～輝きの子育て～

みんなほんもの  
トマトがねえ  
とまとのままでいれば  
ほんものなんだよ  
トマトをメロンに  
みせようとするから  
にせものに  
なるんだよ  
みんなそれぞれに  
ほんものなのに  
骨を折って  
にせものに  
ないたがる

私たち大人だって、自分に自信がないとき、あるいは自分が子どもだったころに自分の親や教師から、それでいいよと認められ愛されてきた経験がなければ、こういうきわめて当たり前のことばの、本当の意味に気付かないものである。そして、いつもいつもそれではダメ、こうでなければダメと言われ、トマトじゃダメだ、メロンになれと言われ続けてきたのでは、子どもたちに「そのままがいいがな」「トマトのままでいいがな」と言ってやることはできないのかも知れない。

でも努力して、トマトのままでいいよ、トマトのママがいいよと、心から言ってやれる大人になりたいと思う。そうすれば子どもたちは、それぞれがほんものそのまま輝くから。

## 欠点まるがかえで信じる

これは子どもを育てるために必要な最高の愛、最も自然な愛のある態度である。子どもが最も安心して成長していける親や教師や大人のありようである。子どもに最も大きな自信を与えることができる大人の姿である。私たちは相手が花であれば、どんな花にでも、その色や形や咲く季節などを気にかけることなく、それぞれが十分に美しいと感じることができる。

そのように、子ども一人ひとりをそのまま十分に美しいと感じることができるような感性を、私たちも磨きをかけて子どもを迎えてやりたいと思う。

私には、この「信じる」が快く響く。「認める」ではなく「信じる」というのが何ともいい。子どもは認められているより信じられているほうが、ずっと生き生きすると思う。こちらの価値観を修正して相手を認めるのではなく、子どもの存在そのものをそのまま信じていてやるのである。信じるとは、信じる者にとってもこの上ない安らぎである。

## 待つ

待ってもむだな ことがある 待ってもだめな こともある  
待ってもむなしき ことばかり それでもわたしは じっと待つ

片野 英子

相田みつお いのちのことば 育てたように 子は育つ  
相田 みつお 書 佐々木正美 著